

令和 8 年度 町政懇談会 (概要報告)

令和 8 年 7 月

宇治田原町

内容

1.高尾区	- 1 -
意見 1_懇談会の日程について	- 1 -
意見 2_地域活動の現状について	- 1 -
意見 3_林道の看板表記について	- 2 -
意見 4_SNS を活用した情報発信と PR について	- 2 -
2.郷之口区	- 3 -
意見 1_公共交通（路線バス）の維持について	- 3 -
意見 2_公共交通（路線バス）維持に向けた住民運動について	- 3 -
意見 3_移住定住につなげる子育て支援施策について	- 4 -
意見 4_懇談会のあり方について	- 4 -
3.銘城台	- 5 -
意見 1_銘城台の活性化と夏祭りの復活について	- 5 -
意見 2_選ばれるまちに向けた利便性向上・インフラ整備について	- 5 -
意見 3_小中一貫教育と学校施設の老朽化について	- 6 -
4.立川区	- 6 -
意見 1_小中一貫教育及び施設一体型学校について	- 7 -
意見 2_山手線開通に伴う交通安全対策及び林道の早期復旧について	- 7 -
意見 3_役場職員の早期退職及び勤務環境について	- 8 -
意見 4_危険箇所（水路・ため池）の根本的な修復工事について	- 8 -
意見 5_有害鳥獣対策、水路整備、公道沿いの倒木対策について	- 9 -
意見 6_今後の道路・開発計画と町の財政運営（借金）について	- 9 -
意見 7_専門外来等の医療体制の充実、郷土教育、関係人口の創出について	- 10 -
意見 8_子どもの学力向上と教育の質について	- 11 -
5.緑苑坂	- 11 -
意見 1_山手線北線及び全線の完成時期と災害時の機能について	- 12 -
意見 2_熊の出没に対する緊急対応・連絡体制について	- 12 -
意見 3_流域視点での地域連携と将来世代へのインフラ維持負担について	- 13 -
意見 4_通学路のトンネルの環境改善と防犯カメラ設置について	- 13 -
意見 5_町主導の大型イベントの開催と観光客の誘致・PR について	- 14 -
6.岩山区	- 14 -
意見 1_南北の都市計画道路と山林の開発について	- 15 -
意見 2_公共交通（運転手確保）と SNS を活用した町政 PR について	- 15 -
意見 3_小中一貫教育の今後の方向性について	- 16 -
意見 4_学校における事案対応と情報発信のギャップについて	- 16 -
意見 5_危険木の伐採補助および公園内の樹木管理について	- 17 -
意見 6_隠谷地区の公共交通（バスとタクシーの選択）について	- 18 -

意見 7_シビックプライドの成果と今後のアプローチについて	- 18 -
意見 8_懇談会の開催時間の設定について	- 19 -
7.禅定寺区	- 20 -
意見 1_道路環境と通学路の安心安全について	- 20 -
意見 2_町単独の農業支援について	- 20 -
意見 3_助成金（交付金）の現状と予算編成の考え方について	- 21 -
意見 4_防犯カメラの設置と広報紙「町民の窓」の改善について	- 21 -
意見 5_土砂災害対策と個人所有地の法面支援について	- 22 -
意見 6_里山の環境保全について	- 22 -
意見 7_小中一貫校の設置計画と子ども目線の議論について	- 23 -
8.荒木区	- 23 -
意見 1_住民プールの存続とサルの対策について	- 24 -
意見 2_防犯カメラの設置台数と自治会への支援について	- 24 -
意見 3_宇治田原山手線の早期整備について	- 25 -
意見 4_新名神高速道路の宇治田原町区間の先行開通について	- 25 -
意見 5_町長の発信と職員の提案・対応の状況について	- 25 -
意見 6_今後の税收確保・企業誘致の計画について	- 26 -
意見 7_旧庁舎跡地利用の進捗について	- 26 -
意見 8_バス停・駐輪環境の改善および「大字・小字」表記の廃止について	- 27 -
9.南区	- 28 -
意見 1_子育て支援施策と行政の責任について	- 28 -
意見 2_建築廃棄物中間処理施設の建設計画について	- 28 -
意見 3_外国人住民との共生と生活ルールについて	- 29 -
意見 4_災害時（大規模停電）における情報提供について	- 30 -
意見 5_山手線用地買収および地域公共交通への要望について	- 30 -
意見 6_プレミアム商品券について	- 31 -
意見 7_町広報紙「町民の窓」の全戸配布について	- 31 -
意見 8_その他要望について	- 32 -
10.奥山田区	- 32 -
意見 1_奥山田地区への継続的支援と国道 307 号の安全対策について	- 32 -
意見 2_地域公共交通（デマンドタクシー等）の利便性向上について	- 33 -
意見 3_水源環境と水質の安全性について	- 33 -
意見 4_太陽光発電への姿勢および共同募金の透明性・手法について	- 34 -
意見 5_道の駅構想と茶畑ロケーションを活かした交流拠点の創設について	- 35 -
意見 6_中学校の教育環境・部活動の充実と評価のあり方について	- 36 -
11.湯屋谷区	- 37 -
意見 1_高齢化社会における災害時の避難インフラについて	- 37 -
意見 2_古道「赤ヶ尾の道」の復旧と観光ルートとしての整備について	- 38 -
意見 3_物価高騰支援策としての「お米券」支給について	- 39 -
意見 4_中谷地区の避難路確保について	- 39 -

意見 5_来訪者増加に伴う防犯カメラの設置・増設補助について	- 40 -
意見 6_町職員数の適正性と災害時の初動対応について	- 40 -
意見 7_河川の土砂堆積に伴う溢水対策と警報時の消防巡回について	- 40 -
意見 8_転入者に対する自治会加入および地域ルールの周知について	- 41 -
意見 9_高校生バス通学費補助の定期券適正区間について	- 41 -

1.高尾区

日 時	令和 8 年 6 月 23 日(火), 16:00~17:25
場 所	高尾公民館
出席者数	8 名

意見交換（◆：参加者，◇：町）

意見 1_懇談会の日程について



- ・今回の懇談会日程について、なぜ高尾区だけが午後 4 時スタートなのか。仕事をしている人は参加が難しい。

◇ 随員職員

- ・各区と調整する中で、高尾区に無理をお願いする結果となってしまったことをお詫びする。

意見 2_地域活動の現状について



- ・地域の清掃活動（クリーンキャンペーン等）において、現在は他所に住んでいるが実家や畑がある方々が多数参加してくれており、大変助かっている。

- ・空家を活用した集まりで昔の行事を記録したビデオを視聴したところ、大いに盛り上がり、参加者同士の交流が深まった。

・弘法の井戸の水汲みや墓参り、ハイキング、ツーリングなどで外部から訪れる人は多く、こうした人々をうまく地域に繋げることが活性化の鍵になるのではないかと。

◇ 勝谷町長

- ・それこそが関係人口のあるべき姿を体現していると



感じた。言葉は悪いが、「人口減少の先進地」ともいえる高尾区で、そうした事例が自発的に生まれていることに大きな感銘を受けた。ぜひ広報紙等で取材をさせてほしい。今後、ふるさと住民登録制度が始まろうとしているが、仕組みを導入するだけでは意味がなく、高尾のように外部の方を受容する精神性があり、かつ受け入れのニーズがあってこそ、町外の方からの応援も成り立つと思う。

意見 3_林道の看板表記について



- 大峰林道入口の看板に「自転車は通行しないでください」と記載されているが、実際には自転車やハイキング客が多く通行している。以前は「自己責任」というニュアンスの表記だったが、自転車損傷事故の後、自転車は通行禁止とされたように思う。看板があっても現実にはサイクリングで通行される方も多いため、実態に即した柔軟な表現（自己責任での通行等）に書き直してほしい。

意見 4_SNS を活用した情報発信と PR について



- 若者や外部からの訪問者を増やすには、TikTok や Instagram など若者目線での SNS 発信が必須である。
- 宇治田原町の穏やかな雰囲気を活かし、例えば「ジブリのまち」のような統一された世界観（コンセプト）で町全体を PR すれば、より魅力が伝わるのではないかな。
- 情報発信の際は、専門家やインフルエンサーを上手く巻き込み、効果的な PR 戦略を立ててほしい。無料で取り上げてくれるインフルエンサーもいるし、繋ぐこともできる。

◇ 勝谷町長

- 山城地域で活動している数万のフォロワーを持つアカウントの運営事業者さんと連携していく予定。

2.郷之口区

日 時	令和 8 年 6 月 23 日(火), 18:00~19:35
場 所	郷之口会館
出席者数	23 名

意見交換（◆：参加者，◇：町）

意見 1_公共交通（路線バス）の維持について



- ・公共交通はまちの魅力や移住定住に直結するため、維持が極めて重要である。路線バスの維持が困難になった場合の代替案として、病院の無料送迎バスのような白ナンバー（運賃無償）での運行や、住民負担による運行維持（他市事例）、タクシーを活用したオンデマンド乗り合い交通（久御山町事例）などを検討すべきである。
- ・運転手確保のためには、公務員としての身分保障など、待遇の安定化も有効な手段ではないか。

◇ 勝谷町長

- ・路線バスの維持に向け、私自身も可能な限りバス利用に努めている。まずは住民の皆様に乗車を呼びかけるとともに、運転士さんへの感謝を伝える運動などを通じて利用促進を図りたい。白ナンバーでの運行（福祉有償運送など）も含め、あらゆる可能性を念頭に置きつつ、現時点では現在の路線の維持に全力を尽くす。

意見 2_公共交通（路線バス）維持に向けた住民運動について



- ・路線バスに乗る住民運動を自主的に始めたい。また、いろんな事態に備えた対策を住民側でも検討するため、町が保有する乗客データ等の情報を共有してほしい。

◇ 勝谷町長

- ・住民発の運動は大変ありがたい。乗客データは事業者の機密情報のため、提供は難しいが、具体的なデータの活用イメージがあれば。共有については、開示可能な範囲でまち未来創造課と連携して対応したい。

意見 3_移住定住につなげる子育て支援施策について



・京都市から移住してきた。京都市では第2子以降の保育料が無料※1であったが、宇治田原町ではその制度が無く、月額 28,400 円の負担増となった。移住定住を促進するためには、他自治体以上の支援が必要ではないか。

・町内に高校がないため、今後の通学に対する不安もある。バス代だけでなく電車代の補助もあればよい。

・子どもの予防接種の問診票発行の際、母子健康手帳を持参せず一度は断られた※2ものの、その後役場から機転を利かせ、保育園経由で対応する旨の連絡をもらった。この臨機応変で住民に近い行政の対応には大変魅力を感じた。

◇ 勝谷町長

・保育料の負担増については申し訳なく受け止めている。比較によるネガティブな要素が移住のハードルになる点は十分に理解しており、今後の課題としたい。

・窓口での機転の利いた対応については良き事例であり、全職員に共有し、引き続き住民に寄り添った対応を徹底していきたい。

◎ 補足説明

※1 保育料の比較

保育所制度比較	宇治田原町	京都市
3 歳～5 歳	国基準に準拠（無償）	国基準に準拠（無償）
0 歳～2 歳	所得や世帯構成による段階的軽減あり	完全無償化（所得制限なし）

上記訴えは3歳になるまでの話と思われますが、3歳児からは本町でも無償になります。

※2 予防接種問診票の対応

予防接種の問診票の発行に際しては、接種間隔の厳格な確認とともに、重複接種・打ち間違いを防ぎ、不適切な接種による健康被害からお子さんを守るため母子健康手帳の提示をお願いしています。

意見 4_懇談会のあり方について



・懇談会を開催したこと自体は評価するが、町長からの説明時間が長く、住民の声を聴く時間が短かった。今後はもっと住民が意見を言える時間を確保し、出された意見をきちんと整理して町政に反映・還元するサイクルを作してほしい。

◇ 勝谷町長

・限られた時間内でより多くの意見を伺う工夫をしていきたい。個別の要望等の集約は、議会議員もその役割を担っていると考えている。進め方は、改善できるところはしていく。

3. 銘城台

日 時	令和 8 年 6 月 23 日(火), 20:00~21:25
場 所	銘城台自治会館
出席者数	14 名

意見交換（◆：参加者，◇：町）

意見 1_銘城台の活性化と夏祭りの復活について



・銘城台は高齢化率が 3 割を超え、商店街もなく、あるのは自治会館だけ。地域活性化が課題である。

・自分としてもどんなことができるのか…。夏祭りを復活させたい声はあるが、自治会役員が 1 年交代のためノウハウが継承されず、自治会主体での運営は負担が大きく困難である。

◇ 勝谷町長

・銘城台はこれまでから役員さんが中心となり、大掛かりなイベントを企画・開催いただいていた。住民が地域の担い手として活動していることに大変感謝している。

・小規模なイベントからでも復活できればと考えており、資金面の支援や、大学生など若い世代をスタッフとして巻き込む仕組みなど、行政として可能な支援を一緒に考えていきたい。

意見 2_選ばれるまちに向けた利便性向上・インフラ整備について



- ・若者の流出を防ぎ移住者を増やすため、高校生の通学費全額補助や、18 歳までの医療費無料化など、他市町村との差別化を図るべき。
- ・新名神や山手線の工事に時間がかかり過ぎ。運転できなくなった時に完成しても、騒音に悩まされるだけになる。早期完成を京都府や国に強く働きかけてほしい。

◇ 勝谷町長

- ・子どもの医療費に係る窓口負担の引下げ（窓口負担 200 円/月＝・R5.9 月から高校生世代まで拡充）については、既に実施している。一方で、自己負担引き下げは、受診の心理的ハードルを下げるため、全体の医療費増大につながり、ひいては全員の負担増にはね返る課題を併せ持つ。
- ・高校生の通学費補助拡充（R7 に 1/2 から 2/3 に拡充）については、選挙公約にも掲げていたとおり、ふるさと納税の増収によって必要な財源を確保できれば、検討したい。
- ・インフラ整備について、宇治田原 IC 予定地は地盤脆弱で難工事箇所であるが、ネクスコの方でも最重要課題と位置付け、地盤改良のための重機を全国から集約して工事にかかっている状況。土木行政に精通した新しくお迎えする副町長とともに、国や関係機関への要望を一層強化していく。

意見 3_小中一貫教育と学校施設の老朽化について



- ・維孝館中学校は新しくなったが、田原小学校や宇治田原小学校の校舎は老朽化している。小中学校の施設を一体化するとしていた計画は、財政面で実現困難と聞くと、中 1 ギャップの解消という本来の目的も含め、今後の学校の統廃合や施設整備の見通しを教えてほしい。

◇ 勝谷町長

- ・施設一体型の小中一貫校については現在計画を凍結し、改めて検討している段階であるが、一体型は手段論。当時と大きく異なる状況として、児童数減少の急速な進行や建設費の高騰等があるが、そうした変化も踏まえた上で、あくまでも子どもの今と未来の幸せと教育の質向上を最優先のテーマに、方向性を示せるように検討しているところ。

4.立川区

日 時	令和 8 年 6 月 24 日(水), 18:00～19:32
-----	---------------------------------

場 所	立川公民館
出席者数	27 名

意見交換（◆：参加者，◇：町）

意見 1_小中一貫教育及び施設一体型学校について



・歴代の教育長が推進し、10 年前に決定された施設一体型の小中一貫校の計画が、前町長時代に財政難を理由に延期（無期限延期）となった。しかし、教育委員会は現在も施設一体型に固執しているように見受けられる。子どもの減少を理由に一体化を強行すれば、通学の不便さから子育て世代の町外流出を招き、少子化に拍車をかけるのではないか。ピンチをさらなるピンチに変える懸念がある。また、5 月に発生した維孝館中学校への夜間侵入事件の事実関係や対策が住民・保護者に不透明であり、不安の声もある。町長としての現在の見解を伺いたい。

◇ 勝谷町長

・現在、教育委員会において再検討委員会の設置を予定し、議論を重ねてもらっている段階であるため、ここで特定の結論を明言することは差し控えたい。ただし、「子どもたちを真ん中に置き、質の高い教育を展開する」という本質的な目的においては、教育長と私の認識は完全に一致している。その目的を達成するため、単に一体型か分離型かという二元論ではなく、今後の予測困難な時代に対応するため、「どのような状況になったらどう判断するか」というトリガーを提示することも含め、大きな枠組みの中で議論を進めるべきだと考えている。

意見 2_山手線開通に伴う交通安全対策及び林道の早期復旧について



・山手線が町役場まで開通した結果、工業団地へ向かう通勤車両やバイクが、糠塚地区内の狭い生活道路（通学路及び高齢者の散歩道）へ分散・流入している。スピードを落とさずに猛スピードで通り抜ける車両が多く、非常に危険である。町に看板設置などの対応をしていただいたが効果がない。工業団地とも協力し、車両の流入抑制や減速を促す抜本的な対策を講じてほしい。大きな事故が起きてからでは遅い。

・鷲峰山トンネル入口から旧道に入り、地福谷（じふくだに）へ抜ける南側の林道が、数年前の土砂崩れ以降、ずっと通行止めのまま放置されている。全国的に山火事等も多発している昨今、管理上危険であるため、早期に復旧してほしい。

◇ 勝谷町長 / 随員職員

・警察当局とはこれまでも協議を重ねており、通勤時間帯の一方通行規制等の導入も検討したが、地元住民の日常的な利便性が損なわれるため、一律の規制は現実的に難しいという課題がある。現時点では、通行台数の抑制や減速を徹底するため、工業団地管理組合や関係企業とも連携し、関係車両へのシールの貼付や、役場職員による街頭啓発、看板の増設等を順次行っている。今後も警察や工業団地管理組合とも連携し、対応していきたい。

・地福谷林道については、府の補助金を活用しながら鋭意復旧事業に取り組んでいるところ。

意見 3_役場職員の早期退職及び勤務環境について



・現在の役場の職員定数（実職員数）は何人か。近年、定年を待たずに早期退職する職員が非常に多いと聞く。新庁舎が完成し、勤務環境が良くなったはずであるのになぜ離職が続くのか。ノウハウを持った職員が辞めてしまうのは町にとっても損失である。また、一部で人間関係のトラブルがあるとも聞く。さらには、土日や夜間も含め、職員が残業している実態を目にする。職員の働きやすい職場づくりに向けた増員等の対策が必要ではないか。

◇ 勝谷町長

・現在の実質的な職員数は 127 人程度（フルタイム再雇用含む）である。早期退職の背景には、全国的な転職市場の活発化、生涯ひとつの職場に勤め続けるのではないという価値観の変化があり、人材不足は全業界共通の課題となっている。退職の理由は家庭の事情など個々人で異なり、私も退職者それぞれの思いは直接聞いており、ハラスメント等が原因での退職ではないと認識している。逆に本町では社会人枠での採用も行っているところ。ハラスメント（職員間、および住民からのカスタマーハラスメント）から優秀な人材を守ることは組織の最優先事項であり、現在、風通しの良い組織づくりと職員を守る仕組みの構築に全力で取り組んでいる。残業対策についても職員を労っていただき感謝する。今年度、住民の皆様にご一定のご理解・ご協力を仰ぐ形も含め、目に見える形で業務環境の向上に向けて取り組んでいくので、その際は、よろしくお願いする。

意見 4_危険箇所（水路・ため池）の根本的な修復工事について



・区を通じて長年要望してきた危険箇所の修復に関し、今年度ようやく予算がついたが、実際の工事内容が「水路の横にブロックを積むだけ」のものであると聞いた。上部にある 2 箇所のため池が崩壊しており、毎年のように大雨のたびに水路から水があふれ、近隣 3 戸の庭先まで浸水している。単に現在の水路の横にブロックを積

むだけ（土のうの代替）では、何の解決にもならない。水路自体の拡張などの根本的な工事が必要である。単年度での完成が予算上難しいのであれば、3 年計画にするなど、根本解決に向けた予算の使い方・複数年計画の策定はできないか。

◇ 勝谷町長

・個別の土木事案であるため、この場で具体的な確約はできないが、まずは区を通じて再度担当課（建設課等）とコミュニケーションを取っていただきたい。行政としては、限られた財源の中で町内全体の「全体最適」を考慮する必要があるため、すべての要望をそのまま 100%実現できるわけではないが、ご提案のあった「複数年計画（3 年計画など）での段階的整備」という手法・考え方については、行政としても選択肢として排除するものではない。地域の切実な状況はお受けしたので、引き続き区を通じて調整を図っていききたい。

意見 5_有害鳥獣対策、水路整備、公道沿いの倒木対策について



・クマの出没が報道等で騒がれがちだが、本町では実際の農作物の被害はシカやサルの影響が中心である。国の事業等で防護柵を設置しているが、水路や公道部分を完全に封鎖できず、そこから侵入される。一度補助事業を利用すると 3 年間は次の事業が使えないといった規制があるが、こうした規制を撤廃・緩和しなければ水田農業が崩壊する。

・糠塚地域では、環境保全会が約 20 年にわたり水路等の点検・維持活動を行っているが、高齢化もあり環境改善の力が不足している。山手線整備に伴う周辺の水利や排水・用水対策の整備を合わせて行ってほしい

・町道沿いの山林で多くの木が朽ちており、台風等による倒木の危険性が非常に高い。地域の要望を重視した迅速な対策を求める。

◇ 勝谷町長 / 随員職員

・サルやシカ、イノシシ等の有害鳥獣に関しては、法律の規制の範囲内で適切に駆除等を実施し、できる限りの対応を行っている。

・倒木対策については、人家に被害が及ぶような場合には危険木防災対策事業もある。公道沿いで道路交通の安全確保に直結する場合は町で緊急的に伐採することもあるが、民有地の場合は所有者による管理が原則となる。水路も含め、いずれも現場の状況を確認し、個別のケースとして担当課で相談・対応していく。

意見 6_今後の道路・開発計画と町の財政運営（借金）について



・配布された山手線のチラシ裏面に「にぎわい創出拠点」として「第二・第三南北線」の計画が記載されていた。これまでの町政では多くの道路やハコモノをつくり、

多額の借金（地方債）を抱えてきたのではないかと。現予算 64 億円の約 1 割が借金の返済（公債費）に充てられていると認識している。町長は「賢く縮む」と言うが、実際には住民プールの廃止や学校給食の民間委託など、住民サービスを削ってお金を捻出しているように見える。砂利採取地にわざわざ「第二南北線」を通す計画などは、特定業者への付度ではないか。過去に作られた計画を粛々と進めるのではなく、一旦立ち止まって見直すべきである。選挙で多くの支持を得て就任した新しい町政だからこそ、過去の計画をそのまま引き継ぐのではなく、どこにも付度しない計画への見直しを強く提案する。

◇ 勝谷町長

・まず、都市計画決定をしていることと、実際に予算を投じて工事に着手（事業化）するかどうかは別次元の政治判断である。私が「賢く縮む」と申し上げている本質的な理由は、将来世代にツケ（負担）を残さないためである。ハコモノを建て続けた結果として財政が破綻（財政再生団体への転落）しないよう、企画財政課で財政シミュレーションを行い、厳格な財政規律を維持している。私自身は「個別最適」ではなく「全体最適（全住民の幸福の最大化）」を追求する立場にある。道路、福祉、子育て、教育、農業など、あらゆる分野のバランスを取りながら、限られた予算をどう最適化するかに腐心している。今と未来に責任を持ったまちづくりを進めるため、今後も単なる批判にとどまらない、建設的な提案型の意見交換を期待している。

意見 7_専門外来等の医療体制の充実、郷土教育、関係人口の創出につ

いて



・町内には内科・歯科の医院しかなく、専門科目の受診には町外（宇治市等）へ出る必要がある。しかし、公共交通（バス等）の便が悪いため、高齢者の通院は多大な負担となっている。他科の医院誘致や今後の町の医療体制をどう考えているか。

・かつて実施されていた「ものしり検定」のような取り組みを復活させ、子育て世代や子どもたちが小さい頃から宇治田原町を深く知るシステムを再構築してはどうか。地域愛着を高めるために必要だと考える。

◇ 勝谷町長

・医師不足の中で新たな医院誘致は容易ではないが、現在、オンライン診療の可能性も研究している。町内だけで全医療を完結させるのは現実的に難しく、近隣の宇治市の医療圏を賢く活用することや、和束町ともトンネルで結ばれたことを受けた広域連携（広域医療圏）の視点を持って対応していく必要がある。

・ものしり検定は、郷土を知るきっかけとなる非常に良い企画であると認識している。そのまま復活させるか、あるいは現代のニーズ（デジタル活用など）に合わせた形に発展させるか、前向きに検討したい。

・（町長からの逆提案） 国の「ふるさと住民登録制度」等の動きを見据え、単なる観光（交流人口）にとどまらず、地域の人手不足や活力維持に関わる「関係人口（ファン）」を増やしたいと考えている。例えば高尾地区では、外部から水を汲みに来る人や自転車（大峰林道など）で訪れる人を寛容に受け入れ、そこから新たなつながりが生まれている。外部の人間が地域に入り込むことに対し、立川地区の皆様がどれだけ寛容に受け入れられるか、その関係性づくりが今後の人口減少社会における重要な鍵となる。

意見 8_子どもの学力向上と教育の質について



・他地域（周辺都市等）と比較して、宇治田原町の子どもの学力が遅れているのではないかと懸念している。中学校から町外へ通うケースもあり、同級生と比べられることもある。町の知名度を上げ、将来的に地域を盛り上げるためにも、若者世代の学力を引き上げる具体的な取り組みが必要ではないか。

◇ 勝谷町長

・実態として、昨年度の全国学力・学習状況調査等の結果において、地方紙で報じられたこの近隣エリア内で平均点を超えたのは宇治田原町のみであり（学年による差はあるが）、「宇治田原の学力が低い」というのは噂が先行している誤解であるため、その点をご安心いただきたい。私は、単にテストの順位や点数を公表して競わせるだけの教育（数字の上位・下位のみに一喜一憂する教育）には意味がないと考えている。それよりも、個々の児童生徒の成長度合い（前年からの伸び率）を評価し、勉強だけにとどまらない「非認知能力（自己肯定感や生きる力）」を育むことこそが重要であり、教育長とともに質の高い教育の追求を進めている。7月1日号の広報紙でも、こうした教育方針（一律の学力公表の見直し等）を教育委員会から発信する予定である。

5.緑苑坂

日 時	令和8年6月24日(水), 20:03~21:38
場 所	緑苑坂自治会館
出席者数	7名

意見交換（◆：参加者，◇：町）

意見 1_山手線北線及び全線の完成時期と災害時の機能について



・宇治田原山手北線は緑苑坂に災害があったときの抜け道ともなる重要な道路で、本町域は概ね完成しているが、大津市側の状況は。

・また、宇治田原山手線全線の具体的な完成時期について質問したい。過去の議会では「新名神開通時に全面開放するが、それ以前でも災害時には病院への緊急搬送路等として早期に使用できるよう協力・約束する」との答弁があったと記憶しているが、現状の確認をお願いしたい。

◇ 勝谷町長

・宇治田原山手北線の延伸部である大津市側の工事については、大津市への要望活動を継続しているが、現時点で明確な完成時期の言及は得られていない。

・宇治田原山手線については現在、京都府の方で用地買収を全力で進めていただいております。工事が止まっているように見えても内実としては進捗している。一日も早い完成に向け、住民や企業、議長とも連携して国・府・財務省へ予算確保を含めた働きかけを続ける。災害時の早期開放や過去の答弁の経緯についても、しっかりと町として状況を確認し、安全確保に努める。

意見 2_熊の出没に対する緊急対応・連絡体制について



・近年、テレビ等で熊の被害が報じられているが、お茶作りのため山林の畑で一人で作業することが多い。最近も奥山田に近い和束町で熊が出没した事例があり不安を感じている。万が一、熊に遭遇・出没した際の町の緊急銃猟体制や、自治会等を巻き込んだ緊急避難・対応訓練などの計画はあるかお聞きしたい。

◇ 勝谷町長

・山城地域は元々熊が出ない地域とされていたため、現在の出没傾向には非常に危機感を持っている。昨日も猟友会、有害鳥獣対策委員、警察等の関係者が集まり、緊急対応マニュアルに対する意見交換を行ったばかりである。住宅地周辺では銃器が使用できないなどの法的な難しさもあるが、防犯メールの発信、周知アナウンス、学校・子どもたちの安全確保などの防犯連絡体制は整備している。先進地である木津川市の情報も収集しつつ、実効性のある連絡体制・訓練の実施について検討を進めたい。

意見 3_流域視点での地域連携と将来世代へのインフラ維持負担について

て



・行政区の枠を超えた「流域（上流・下流）」単位での防災・環境・経済連携の重要性を感じている。宇治田原町は豊かな山林を持つ「上流域」であり、下流域の企業の中には、中長期的な持続可能性やカーボンクレジット等に関心を持つ企業が出てきており、その企業と連携することで、水源管理や林業の価値を高められるのではないかと。

・道路整備について、新設時は国等の補助金で賄えるとしても、将来の補修・維持管理費は町（地方自治体）の財政負担になると聞いている。現役世代の利便性だけでなく、将来の世代に過度なインフラ維持費のツケを残さないような持続可能な道づくり・予算配分を意識してほしい。

◇ 勝谷町長

・流域視点での企業連携や環境価値の創出というアイデアは非常に鋭く、有益な情報であるため、今後ぜひ詳細を共有いただき参考にしたい。

・インフラの維持管理コスト（老朽化する水道管等の問題を含む）は、全国の自治体が直面している最も深刻な課題の一つである。限られた財源を今だけでなく将来の世代を見据えてどう最適に配分するかは、政治が責任を持って考えなければならない視点であり、将来負担を十分に考慮して施策を進めていく。

意見 4_通学路のトンネルの環境改善と防犯カメラ設置について



・緑苑坂の坂道下にあるトンネル（ボックスカルバート）は、中学生のテスト期間等にポイ捨てや落書きが急増する暗い空間になっている。単に叱るのではなく、通学する子どもたち自身を巻き込んで壁画を描くなど、ポップで明るい空間へとリニューアルするアートプロジェクトを提案したい。自分たちで作ることで空間への愛着が湧き、結果としてモラルの向上や山火事防止に繋がるという逆転の発想である。

・あの場所は過去に何度も住民や行政で落書き消去・塗り替えを行ったが「いたちごっこ」である。昔は真っ暗で夜間にバイクのたまり場になっていたため、防犯灯や防犯カメラ（当時は全域設置の議論もあった）を要望した経緯がある。現在の緑苑坂地区は460世帯が加入しているが、防犯カメラは自治会館の1台のみである。

・プライバシー問題（個人の敷地や玄関が映る制約）や、多額の経費の関係で区全域への設置は頓挫したが、事件発生時の警察の捜査効率を考慮し、地区の外周道路や出入口、階段の上り口などの要所に絞って設置すべきではないか。地区の総意

（総会）形成を図った上で、自治会が半額を負担し、町の補助金制度を活用して計画的に進めたい。

◇ 勝谷町長

- ・子どもたちを巻き込んでトンネルをアート空間に変えるという発想は大変素晴らしく、共創（ともにつくる）の精神に合致する。実施可能か前向きに検討したい。
- ・防犯カメラについては、町が一括で全域の生活道路に設置することは財政的にもプライバシーの観点からも難しいため、現在町が実施している「自主防災組織安心安全活動補助金」を活用いただくのが現実的である。地域の出入口などの要所を絞った設置計画について、自治会側で検討・申請をまとめていただければ、町としても順次支援を進めていきたい。

意見 5_町主導の大型イベントの開催と観光客の誘致・PR について



・住民が町に愛着を持ち「自分ごと」として関わるきっかけとして、例えば「宇治川マラソン」のような町外からも多くの人を呼び込める大規模なマラソン大会や、町内の山道を走るツーリングカー（ラリー等）のイベントをもっと町主導で大々的に周知・拡大し、ワクワク感を創出してはどうか。また、現在の町の YouTube の PR 動画は内容が古く、役場 1 階の観光パンフレット配置も分かりにくい。新設されたトンネルの効果でサイクリストやバイカーが急増しているが、立ち寄る場所がなく信楽方面へ素通りしているため、空き地を活用した休憩・PR スポット（サイクルステーション等）を整備してはどうか。

◇ 勝谷町長

・イベントを単に町が主催するビッグイベントして拡大するだけでは行政主導の受け身のイベントになり、持続可能性が低くなる。住民や商工会、スポーツ協会が担い手となりみんなで神輿を担ぐような「手作りの賑わい」こそが重要である。YouTube 動画の更新や情報発信のあり方、サイクリスト向けの案内パンフレットの改善については、「まち未来創造課」のミッションとして、順次「見える化」とアップデートを進め、外から来る人々を上手に迎え入れる仕組みを作っていく。

6.岩山区

日 時	令和 8 年 6 月 25 日(木), 18:00~19:30
場 所	岩山会館
出席者数	15 名

意見交換（◆：参加者，◇：町）

意見 1_南北の都市計画道路と山林の開発について



・「緑はある、自然はある」と思っている中、中学校の南側の山が大きく削られ、重機が常に動いている景観が気になっている。以前配られたチラシで、地区ごとの開発や道路建設の計画図を見たが、あの山を崩してまで進める必要があったのか。中学生に対し「緑豊かな自然が町の誇り」と言っている中で、目の前の象徴的な山が消えていくのは子どもの心が痛むのではないか。どのような計画になっているのか説明してほしい。

◇ 勝谷町長

・指摘のエリアは、国道 307 号と宇治田原山手線を南北に結ぶ「都市計画道路」の予定地として地図上で計画の貼り付けがなされている。ただし、現在の町の厳しい財政状況を鑑みると、すぐにガンガン工事を着手できるようなものではなく、具体的な着工はかなり先の見通しの立たない話である。現在行われている工事のように見えるものは、道路建設ではなく「砂利採取」という民間の事業である。砂利採取は我々の生活やインフラを支える上で必要な産業である。しかし、景観の観点や、中学生をはじめとする子どもたちの感覚への影響という指摘は重く受け止める。今後も「持続可能な開発」「バランスのある開発」という視点を持って向き合っていく必要がある。

意見 2_公共交通（運転手確保）と SNS を活用した町政 PR について



・鉄道のない本町において路線バスは生命線であり、維持へのご苦勞に感謝する。関東などでは日本人の運転手不足を補うために外国籍の運転手を積極採用している事例もあるが、そうした掘り起こしの提案はできないか。

・また、今日の予算説明や健康医療課の素晴らしい各種制度をもっと一般に周知するため、子育て世代や現役世代に向けて LINE などの SNS をさらに積極的に活用して PR すべきだと思う。現状の公式 LINE の登録者数はどのくらいか。

◇ 勝谷町長

・外国籍の方や高齢者、女性、障がい者の方などの雇用掘り起こしについては、まさにバス会社へ提案を行っている。バス会社側は事故リスクを非常に恐れるため慎重になりがちだが、現在は「運転データを可視化するセンサー」を車載し、事前に安全運転の適性をデータで証明できる仕組みを民間企業と連携して提案もしていきたい。

・LINE については、現状の登録者数は 300～400 人程度（※6 月 26 日現在：834 人）と非常に少ない。また、現在の発信は町からの「一方通行」になっている。理想は、長岡京市で人口を超える登録者数を持っており、住民と行政が双方向でやり取りできる仕組みを構築すること。現在、この方向での活用方法を研究中である。

意見 3_小中一貫教育の今後の方向性について



・現在計画が中断されている「小中一貫教育」について、町として将来的にどのように方向づけ、考えているのか教えてほしい。多くの住民が関心を持っている。

◇ 勝谷町長

・本年度、教育委員会の中に「再検討委員会」を設置し、本腰を入れて議論を開始する予定である。私自身は、「施設一体型にするかどうか」は手段論であると考えている。「子どもたちの今と未来の幸せのために、どのように教育の質を上げるか」を議論のセンターに置くよう南教育長とも何十時間も徹底的に議論し、共通認識を持っている。また、現在物価高騰により、最近の工事費が 2 倍近くに跳ね上がっているという現実的な問題もある。「何年度にどうする」という表現ではなく、「このような教育を目指すために、この方向で進める」という道筋を立てられるよう検討を進めているところ。

・なお、一部で「町の学力が低いのではないか」という誤解（立川地区の懇談会等での声）があるが、これは明確に否定させていただく。前年の小 6・中 3 の全国学力テスト等の結果でも、地方紙等で報じられ近隣エリアで平均点を上回ったのは、宇治田原町だけである。近隣の市町が非常に苦戦している中で、本町の子どもたちは健闘している。学校の、そして子どもたちの名誉のためにこれだけは強くお伝えしておきたい。

意見 4_学校における事案対応と情報発信のギャップについて



・先日中学校で発生した窓ガラスが割られた事案について、新聞報道で知って心配している。しかし、毎月発行される「中学校だより（学校だより）」にはその件に一切触れられておらず、修学旅行の楽しい思い出など、良いことばかりが綺麗に書かれている印象を受けた。事実を隠すのではなく、一言だけでも「このような事案があり、現在学校として厳正に対処・更生に向けて動いているので、しばらく温かく見守ってください」と書くべきではないか。そうでないと、ルールを守って真面目に頑張っている大半の生徒たちが不公平感を抱く「大人の事なかれ主義」に見えてしまう。笑顔のマーク（スマイルマーク）が紙面にあるのが、かえって虚しく感じられた。

◇ 勝谷町長

・本学校内で他人の勉強する権利を侵すような行動に対しては、厳正に対処するのが大前提であり、そこは徹底している。一方で、不登校などの課題を抱える生徒に対しては、しなやかに向き合うというように、階層分けをしながら、校長をはじめ現場は覚悟を持って必死にやっている。情報発信について、学校は事案発生時に「保護者向け」には事実とお詫びの通知を直接配布している。しかし、地域全体に回覧される「学校だより」に詳細を掲載することについては現場は非常に苦慮したと推察する。小さな町なので、不特定多数向けに書くことでインターネットや地域で噂が噂を呼び、当事者や関係者がさらに深く傷ついてしまうリスクがある。保護者向け（事実開示）と地域向け（静観を促す）で二階層に分けた結果、地域の方から見ると「何もなかったことにされている」という大きなギャップや虚しさを生んでしまったことは理解した。情報発信の空気感やタイミングについては、非常に参考になるご意見として、今後の丁寧なコミュニケーションに活かしたい。校長をはじめ、個別の相談にはいくらかでも直接乗る覚悟でやっているの、ぜひ現場の教職員へも励ましをいただけるとありがたい。

意見 5_危険木の伐採補助および公園内の樹木管理について



・約 40 年前に自然環境の良さに惹かれて移住してきた。当時、町や行政が良しとして植栽した木々が、老木化し、台風等で住宅や私有地に倒れる危険が高まっている。自宅のすぐ近くには電柱があり、電線が 9 本も通っている。5～6 年前に杉の木が電線にかかりそうになったため、関西電力に直接連絡して、電線に触れる部分の枝打ちはしてもらった。しかし、公園内に植えられている桜の木も今や電柱を遥かに超えて電線の上にまで大きく伸びており、関電からは「桜は（私有地・町有地のため）手が出せない」と言われた。老木が電線に接触して森林火災と住宅火災が同時に発生する危険を感じている。町には「危険木伐採の補助金（京都市では上限 30 万、75%補助等がある）」があると調べたが、宇治田原町でのこれまでの実績や適用要件はどうなっているか。一度現地を見て、安心して暮らせるよう対応してほしい。

◇ 勝谷町長

・本町にも「危険木伐採の補助制度」自体は存在する。ただし、これには特定の要件（民家への近接度や危険性の認定基準など）が細かく定められているため、実績や要綱を確認する必要がある。私有地の中の特定の 1 本に対して行政がどこまで介入できるかは法的な境界線もあるが、ご指摘の案件はすでに危険性が顕在化していると思われるため、ここで一般論を並べるより、一度「農林環境課」へ個別に直接ご相談いただきたい。また、公園内の桜の木については私有地ではなく公共管理の範疇であるため、町として対応（枝打ち等）ができる可能性が高い。安全安心の観点からしっかりと確認する。

意見 6_隠谷地区の公共交通（バスとタクシーの選択）について



・何年か前、地域で熱心に運動を起こした結果、隠谷地区にもコミュニティバスが乗り入れるようになり、住民は大変喜んで生活していた。しかし、その後バス路線が廃止され、現在は乗り合いタクシー（ハートタクシー）のエリアに変更されてしまった。タクシーを利用している人は「便利でありがたい」と喜んでいるが、車を自ら運転できない高齢者が急激に増える中、「せめて午前と午後に 1 本ずつでも、以前のようにバスを復活させて回してほしい」という声が根強くある。高齢になってもこの地で最期まで暮らし続けるために、何か良い方法はないか。

◇ 勝谷町長

・公共交通網の再編については、住民の皆様の利便性と町の持続可能性を天秤にかけ、非常に苦しい「全体最適」の中で判断している。本町が一番守らなければならないのは「交通の空白地を作らないこと」であり、そのために地図上でバスエリアとタクシーエリアを明確に塗り分けて役割分担をしている。以前のように定時定路線のバスを無理に走らせると、結局のところ誰一人乗らない「空気を運ぶバス」になってしまい、財政赤字を生むだけで維持が不可能になる。そのため、予約制（オンデマンド）ではあるが、個々のニーズに柔軟に対応できるタクシーエリアへ移行した。バスとタクシーの「両方を同じ地域に走らせる」ことは、財政的にも、他の地域との公平性の観点からも不可能である。車を無理して運転されている 80 代の方々にも、ぜひこの「ハートタクシー」の仕組みを積極的に使っていただき、足の確保をしていただきたい。どっちも通せという「両獲りの絵」は描けないという大前提（持続可能な限界）をご理解いただきつつ、高齢者が安心して暮らせる方法を引き続き模索したい。

意見 7_シビックプライドの成果と今後のアプローチについて



・町長が説明された「シビックプライド（まちづくりに対する主体性）」について質問。現在、学校の総合学習などで「宇治田原のいいところを見つけよう」という活動が盛んに行われており、取組自体は素晴らしいと思う。しかし、同級生（当時、中学生）たちと話をしても「宇治田原って結局何もないよね」「人口も少ないし」というネガティブな会話ばかりになり、高校生や大人になって町外の人から「どんなまち？」と聞かれても「何もない」と悪印象を広めてしまっている。本当に町に愛着を持ち、主体的にまちづくりに関わろうとする人はごく一部に限られていると感じる。せっかくの教育活動の成果がうまく出ていない現状に対し、今後どのようにアプローチしていくのか。

◇ 勝谷町長

・非常に本質的で、核心を突いた素晴らしい質問を出してもらい感謝している。結論から言うと、これは「行政が施策をやったからすぐに結果が出る」という性質のものではない。子どもたちが育つ家庭環境で、お父さんやお母さんが日常的に「このまちはつまらんな」「何もないな」と言っているのを聞けば、子どもが町に関わろうとする意欲は一瞬で削がれる。今の若い世代が、イオンのような物質的な豊かさや、YouTube で見る都会のキラキラした表層的な部分に憧れ、「何もないから外へ出たい」と思うのはごく自然で当たり前のこと。想定範囲内である。日々その現実と抗いながら向き合っている。しかし、本当の人生の豊かさとは何かと考えたとき、都会の匿名性の中にはない。「人の顔が見える関係性」があることの価値や、困ったときに助け合える「ふるさと」がここにあることの価値に、いつか気づいてもらえる時が来たらと思う。飛騨市（岐阜県）の関係人口創出も、成功するまでに10年以上の徹底的な住民の意識変革と寛容さの積み重ねがあった。一気に全員を変えることはできないが、まずは今ここにいる皆様のように「この地域は自分たちが回す」という当事者意識（活動量の総量）を0.1 ずつでも増やしていくしかない。非常にまどろっこしいアプローチだが、この対話の場を愚直に続け、大人が行動する背中を未来世代に見せていくことで、緩やかな人口減少の中でも町を活性化させるサイクルを回していきたい。

意見 8_懇談会の開催時間の設定について



・今回の町政懇談会は 18 時開始となっているが、平日のこの時間は働いている人間にとっては非常に厳しい。このような有意義な対話の場をより多くの一般住民に広げたいのであれば、平日の 18 時開始という時間設定そのものを工夫・見直すべきだと思う。

◇ 勝谷町長

・現役世代や働く世代の方にとって平日の 18 時に来ることの難しさは理解する。今後は、時間設定の工夫や曜日選定について検討を行いたい。なお、アナウンスが不足していたが、本懇談会は「岩山地区住民は岩山会場のみ」という縛りはなく、都合が合わなければ他地区（他日程）の会場へお越しいただいて発言していただいても構わない柔軟な設計にしている。そうした周知も含めて、今後の広報・運営を改善する。

7. 禅定寺区

日 時	令和 8 年 6 月 25 日(木), 20:00~21:30
場 所	禅定寺会館
出席者数	32 名

意見交換（◆：参加者，◇：町）

意見 1_道路環境と通学路の安心安全について



・府道の交通量増加に伴い、区内信号機での信号無視（トラックや乗用車）による園児・児童の巻き込み寸前の危険事案が複数発生している。重大事故が起きる前に、警察や振興局への働きかけも含め、具体的な安全対策（道路設備等）を最優先で講じてほしい。山手線開通後も府道が抜け道になり、交通量が減らない懸念がある。また、滋賀県側（南郷 IC 方面）の接続部で信号が設置されない計画について事故を強く懸念している。

・サンビレッジから小学校へ降りる通学路（通称トトロの森）が、伐採の影響で雨天時に小川（泥水流）状態となり、冬季は凍結して児童が転倒する等の問題がある。教育委員会へ何度も改善を求めているが根本解決に至っていないため、早急な対応をお願いしたい。

◇ 勝谷町長

・安心安全の確保はまちづくりの大前提である。通学路については、個別ケースとして対応する。

・予算配分については、医療・福祉等も含めたまちづくりの「全体最適」の観点から優先順位をつけて予算を編成している。信号無視等の交通違反については運転手の責任であるが、子どもたちへ車の危険性を教える安全教育も重要である。京都府等への具体的な設備要望・働きかけを継続するとともに、地域と連携して安心安全を守る。山手線開通による迂回路の形成についても、災害時の観点を含め大津市等と連携を図っていく。

意見 2_町単独の農業支援について



・今回の説明において、地元の基幹産業である農業に関する言及が少ない。毎年、JA や茶業部会からお茶、きゅうり、水稻などの地元農業を支える作物について要望

が出されているが、国や府の補助とは別に、町単独での農業支援の実施状況や、昨年の要望事項の採用状況について伺いたい。

◇ 勝谷町長

・農業は国の生産量や食料安全保障の観点からも非常に重要であり、安心安全に直結する分野である。JA 等からの要望に対しては、町としても応分の連携支援を行っている。しかし、昨今の資材・燃料価格の高騰が激しく、すべての要望や高収益化への補助が追いついていないのが実情である。国の基準額と実際の見積額の乖離という構造的な課題（標準額が実態に追いつかない問題）は町としても認識している。町単独としては、お茶の品評会への報償等の支援を行っている。近々、京都府の農林水産部長との意見交換を予定しているため、現場の切実な声を直接届けてまいりたい。

意見 3_助成金（交付金）の現状と予算編成の考え方について



・国や府からの助成金・交付金について、京都府内 26 市町村の中で宇治田原町がどの程度の水準（順位・割合）で獲得できているのか。

・町長が「白紙の状態で予算を組む」と発言されることがあるが、その真意について説明を求めたい。

◇ 勝谷町長

・「白紙」の意図について、就任 1 年目の予算は「骨格予算」に近かったが、令和 8 年度予算は丸々 1 年間、自身の公約や方針を一から反映させて編成した「本格予算（当初予算）」であるという意味で用いた。

・交付金等の水準について、一概に他市町村との金額比較（順位付け）は困難である。なぜなら、各課の職員が町の独自の取組に応じて申請・獲得するメニューや、新名神のように京都府を経由して配分される事業など、多岐にわたるためである。今年度予算は前年比 8 億円増の過去最大 64 億円であるが、これは町の一般財源（持ち出し）を極力抑え、有利な財源や起債（借金）を戦略的に引っ張ってきた結果であり、財政の健全性に配慮しつつ予算規模を拡大している。

意見 4_防犯カメラの設置と広報紙「町民の窓」の改善について



・特殊詐欺等の防犯対策として、町内における現在の防犯カメラの設置台数と、公民館やスーパー周辺等への設置に対する個人・団体向けの補助金制度の有無について伺いたい。

・広報紙「町民の窓」の表紙写真について、町の高齢化率が35%に達している現状を踏まえ、子どもの記事だけでなく、年2回程度は高齢者が元気に活躍（ゲートボール等）している姿を表紙に採用してはどうか。

◇ 勝谷町長

・防犯カメラについて、具体的な設置台数の明言は防犯・治安上の観点から差し控えるが、近隣自治体の人口比ベースと比較してやや多い水準で整備している。自治会を対象とした防災・防犯メニュー（2分の1補助など）が存在するため、地域での合意形成を図った上でぜひ活用いただきたい。

・広報紙の表紙について、多くの住民が主役となる広報紙づくりに努めており、提案を参考にする。紙面内には高齢者向けの「元気の秘訣コーナー」（75歳以上対象）を設けているが、担当職員が取材に赴くと恥ずかしがって断られるケースが多い。ぜひ地域の皆様に積極的にご登場いただき、元気な姿を発信していきたい。

意見 5_土砂災害対策と個人所有地の法面支援について



・地球温暖化の影響による集中豪雨の増加に伴い、山間部である当地域では土砂災害への不安が大きい。民家の危険木伐採補助は活用させていただいたが、個人所有の土地（山林・法面）が崩落する危険性がある場所に対し、町としてどのような役割や避難・改修支援を想定しているか。

◇ 勝谷町長

・災害対策や崩落危険地への対応はケースバイケースであり、一律の全体施策として対応することは難しいのが現状である。ただし、個別の危険箇所や具体的な相談があれば、農林環境課や地元議員とも連携しながら現場を確認し、町としてできる限りのコミュニケーションや対応策を個別具体的に検討していきたいので、ぜひ声を届けていただきたい。

意見 6_里山の環境保全について



・立川地区で行われている砂利採取について、里山の景観（見栄え）が非常に悪く、土砂災害の懸念もある。採取後の緑化や埋め戻しなどの復元対策はあるのか。また、将来的な都市計画はあるのか。

・町が進める空き家対策の主たる目的は「移住定住」のみであるか。

◇ 勝谷町長

・現在行われている砂利採取については、京都府と町の許可に基づく適正な手続きを経て実施されている。一方で同時期に複数箇所での採取は認めていない。景観悪

化の懸念は理解するが、採取後は適切な復元（緑化）等の手続きが含まれている。
また、都市計画上、縦のラインとしての「南北線」構想は図面に載っている。

・空き家対策の目的については、移住定住の促進だけでなく放置による治安や景観の悪化防止や、老朽化による道路面への倒壊危険を排除する（危険空き家の除去）という、地域の安全管理も重要な目的である。

意見 7_小中一貫校の設置計画と子ども目線の議論について



・少子化（年間の出生数が 30 名台に減少）が進む中、将来的に小中一貫校として両校（田原小・宇治田原小）を統合しても各学年 1 クラスとなり、校舎に空き教室が出る。令和 6 年開校予定の延期を踏まえ、今後の設置計画の見通しや目安を伺いたい。

・小中一貫校が維孝館中の横に設置された場合、放課後に児童を両小学校の学童保育施設へバスで移動させる案があると聞いたが、低学年児童の安全面、バス停での混雑・混乱、保護者や指導員の負担が大きすぎる。池田小学校（大阪）の事例でもバス通学が児童・教員の負担になっている調査結果がある。単なる建設場所や経営効率の問題ではなく、子どもの一日の動きを追った「子ども目線」での慎重な検討を要望する。

◇ 勝谷町長

・一貫校の設置自体は一つの手段であり、メインの目的は「子どもたちの今と未来の幸せのための教育の質の高さ」を確保することである。これを中心に据え、今年度に教育委員会内に「再検討委員会」の立ち上げを予定しており、本格的な議論を開始する。昨今の物価高騰による建設費の急騰や、人口減少が続く前提自体の考え方も含めた議論が必要であるため、条件提示も含め、今年 1 年をかけて慎重に検討を重ねていく。

・バス通学や学童保育の移動に関する安全面、子どもや教員への負担に対するご指摘については、貴重な現場の懸念材料（ご意見）として受け止める。単に「何がダメか」だけでなく、「どうすれば良くなるか」という建設的な視点も交えながら、教育長・教育委員会とともに子ども第一の視点で検討を進める。

8.荒木区

日 時	令和 8 年 6 月 26 日(金), 18:00~19:30
場 所	荒木公民館

出席者数

17 名

意見交換（◆：参加者，◇：町）

意見 1_住民プールの存続とサルの対策について



・住民プールは古いが子どもたちが自分たちで遊びに行ける場所として、綺麗に残してほしい。継続してイベント等に活用できないか。

・最近、サルが多数出没し、屋根に上がったり、農作物を荒らすなど被害がひどい。集団行動しており、追い払いをしても別の場所へ行くだけである。上から網等で捕獲するような、より効果的な対策はできないか。

◇ 勝谷町長

・住民プールに関しては、私も胸が締め付けられる思いだが、社会体育施設運営委員会や議会での議論を経て廃止が確定している。子どもたち同士で行ける場所が大事という部分については同感である。代替として中央公園の利活用などを検討中であり、アイデアをいただきたい。今年度の新規事業として小学校のプール開放事業を行う。

・サルの件はイノシシやシカ以上に対策が難しいが、法令の限界（年間捕獲上限枠）まで毎年対応している。モンキードッグの取組は活動地域では有効だが、追い払いをしても別の地域へ移動するので、今度は移動した先の地域が犠牲になってしまうのが現状。地域全体（面）で餌となるものをなくすなど、「ここに食べ物はない」と認識させる地域での防衛も重要。現在荒木地区に群れが入っている状況と認識した。

意見 2_防犯カメラの設置台数と自治会への支援について



・近年、全国的に凶悪犯罪が増えていると感じる。宇治田原町内に防犯カメラは何台あるのか。

◇ 勝谷町長

・防犯カメラの具体的な台数は、防犯上の理由から公表を控えているが、人口一人当たりの設置台数で言うと、本町は近隣より多い。自治会で新たに設置される場合は、費用の 2 分の 1 を助成する制度がある。田辺警察の署長とも意見交換しているが、警察の捜査もカメラ前提になってきており、綴喜地区全体で追っていきたいという意向を伺っている。自治会においても助成制度を活用し、設置をご検討いただけるとありがたい。

意見 3_宇治田原山手線の早期整備について



・過去に小学校の校長先生から、国道 307 号の渋滞が激しいため、先生が宇治田原町に来たがらなないと伺った。山手線は大動脈であり、良い先生に来てもらうためにも一刻も早く作ってほしい。

◇ 勝谷町長

・山手線整備は京都府の事業であるが、町としても全力を尽くしている。進捗が目に見えづらいが、現在は用地買収と設計の段階（役場先 2.1 キロ区間）に入っており、早期整備に向けて議員等とともに国・京都府への要望活動を続けていく。

意見 4_新名神高速道路の宇治田原町区間の先行開通について



・山手線の緑苑坂から大津区間について、パッと見たところ宇治田原町の区域はだいぶ工事が進んでいるが、大津市のエリアがまだ進んでいないように見える。全体が開通するまでに、宇治田原町部分だけでも早く使えるよう、大津市やネクスコに働きかけられないか。

◇ 勝谷町長

・宇治田原町内の区域（緑苑坂から先）については、ネクスコから引き上げて町が発注者となって進めている。大津市の佐藤市長にも要望に行っている。大津市側にとっても災害時の代替交通路として有効である旨を提案しつつ、早期整備を働きかけていく。

意見 5_町長の発信と職員の提案・対応の状況について



・町長が就任して 1 年 4 か月、新しい感覚で宇治田原を変化させていく姿勢を感じる。現在進めている様々なアイデアは、町長から職員に投げかけているのか、それとも職員からの提案を町長が採用しているのか。

・職員の窓口対応等（今日のサルの対応など）住民の気持ちに寄り添った丁寧な対応を心がけてほしい。町長が若くなり、ベテラン職員とのコミュニケーションにギャップがあるのではないか。

◇ 勝谷町長

・当初は自身から提案することが多かったが、現在は「まち未来創造課」をはじめ、管理職や職員がリスクを取って自発的に提案・行動してくれるようになってきている。言葉として「思考なき前例踏襲の打破」を発信し続けている。それぞれ職員と

のコミュニケーションにはグラデーションはあるものの、同じ方向を向いていけるよう取り組む。

◇ 随員職員（管理職）

・町長自らの言葉（発信）による具体的なビジョン、指示に対し、古い人間（ベテラン）は適応への戸惑いやキャッチアップに苦労する面もあるが、若い職員は比較的スムーズに受け入れており、組織全体として「前例踏襲」からの脱却を意識し始めている。徐々に変化している。

意見 6_今後の税収確保・企業誘致の計画について



・事業を進めるには税収が必要。宇治市も久御山町も企業誘致に力を入れているが、工業団地のさらなる造成や、大きな企業の誘致計画はあるのか。

・財政の見込は人口減少に伴う税収への影響なども加味しているのか。

◇ 勝谷町長

・水面下で製造業等の企業立地・誘致を進めている（特に南地区）。物価高騰や労働賃金の上昇、新名神の遅れにより建設費が大幅に高騰するなど、ネガティブな要素もあるが、来てもらう前提での都市計画を進めている。明日も東京に単身乗り込んで 20 社程度の企業と話をする予定。

・財政シミュレーションでは、向こう 5 年（中期：5 年）は収入、需要の動向を一定反映して積み上げているが、その先 10 年（長期：15 年）は公債費にのみ着目した粗い推計となっている。本町の税収構造は、固定資産税の比率が高く、町税 17 億円強のうち、10 億円超を固定資産税、2 億円弱を法人町民税が占めるなど、人口減少局面でも比較的安定した税収が見込める強みはある。

意見 7_旧庁舎跡地利用の進捗について



・旧庁舎跡地を徳洲会病院に売却し、介護保険施設が建設されるとのことだが、その進捗はいかがか。

◇ 勝谷町長

・議員からの一般質問でもお答えしたが、売買契約を取り交わした後、5 月末に代金を受領し、正式に所有権が町から医療法人に移転したところ。懸念されるのは、全国的な工事費の高騰であり、法人側のタイミング次第という状況であるが、約束どおり進めていただけるものと思っている。

意見 8_バス停・駐輪環境の改善および「大字・小字」表記の廃止について



・アオキスーパーが出来た時に駐輪場がなくなったが、今でも自転車が 5 台ほど駐まっているスペースがある。307 号線の土地を借りて、整地して観光や経済につながるための駐輪環境の整備ができないか。

・宇治田原町の住所には「大字・小字」が入るが、この表記を無くせないものか。書くのも面倒であるし、何より若い人や移住を考える人にとっては田舎っぽいと感じるのではないか。

◇ 勝谷町長

・自転車置き場の件は、改めて協議したい。「大字小字」の廃止※1 については、過去にも意見をいただいたことがあるが、各種システム等の書き換えに多大な費用がかかるとい課題がある。気持ちは理解できるため、何ができるか検討したい。

◎ 補足資料（後日、内部における確認事項）

※1 大字小字の廃止は、単に住所を「短縮」という目的のみで実施されることはほとんどありません。それは、実施に伴う行政・経済・文化的なコストが極めて膨大であることに起因します。特に住民に課される運転免許証やマイナンバーカード等の変更手続き、事業者の法人登記変更等の負担は、社会的なコンセンサスを形成する上で大きなハードルとなります。したがって、これらの変更を検討する際には、住居表示の実施や土地区画整理といった、住所体系を抜本的に整理する必要がある場面において、その副次的な影響として慎重に議論すべき事案と考えます。

9.南区

日 時	令和 8 年 6 月 26 日(金), 20:00~21:30
場 所	南区公民館
出席者数	18 名

意見交換（◆：参加者，◇：町）

意見 1_子育て支援施策と行政の責任について



・説明が長いと思う。（この日の説明は 45 分）町長が自身の施策や思いを一方的に語る場ではなく、もっと住民の声を聞く時間を確保してほしい。後半の話は大学教授の講演のようで、行政トップとしての責任の所在や自負が見えてこない。「あなた方がもっとがんばりなさい」と突き放されたように感じる。

・自身の 2 人の子どもたちも「魅力がない」と町外へ出て行ってしまった。人口減少を食い止め、実質的に「住んでよかった」と思える町にするため、2 人目以降の子育て支援の拡充、0 歳～2 歳児の保育無償化、中学生の給食費完全無償化、通学費の全額補助など、実質的な経済支援へ大胆に財源を投入すべきである。

◇ 勝谷町長

・町政の最終責任者は間違いなく私自身である。人口減少時代においては、住民の皆様にも町の課題を「自分ごと」として捉えていただくことが究極の生き残り戦略であり、行政だけで解決できない領域だからこそ協働を呼びかけている。都市部のような物質的・利便的な豊かさを求めるならば都市部に軍配が上がるが、宇治田原町の強みは「顔の見える関係性」である。

・一方で、行政としては「稼ぐ」取組を徹底し、確保した財源を子育て支援等の施策へリターンしていく責任がある。ご提案のあった具体的な子育て支援策も含め、個別最適ではなく、現在と未来の町全体を見据えた最適化（予算編成のバランス）の中で真摯に検討していく。

意見 2_建築廃棄物中間処理施設の建設計画について



・宇治田原山手線近くに「建築廃材の中間処理施設」を建設する計画がある。町から区長へ事前説明があった際、町主体の住民説明会は一切行わないとのことだったため、区側から事業者に要請して地元説明会を開催してもらった経緯がある。この

ような住民生活に影響が大きい施設に対し、町としての見解や規制方針はどうなっているのか。

・最も重大な懸念は環境汚染である。廃材を洗浄した水が山へ流された場合、我々が飲料水として利用している井戸水（水源）に達し、汚染されるリスクが非常に高い。コンクリート床の下に防水シートを敷設するなどの確実な対策を求めても、業者側は沈殿槽の設置を言うのみで、肝心な質問には沈黙している。10 年前にも同様の計画が住民の反対で頓挫した経緯があるが、今回はインターチェンジができるため狙われたのではないか。数年後、水源が汚染された場合、町は責任を持って補償できるのか。しっかりとした仕事をさせるよう行政が指導すべきである。

◇ 勝谷町長

・（何も聞いていないのかという問いに対して）説明会が開催された事実は把握していたが、質疑応答の議事録や詳細なやり取りの時系列はまだ報告を受けていない。法的な手続きや地元への説明プロセスにおける担当課のコミュニケーション、前さばきの手法に不信感を与えてしまった点については事実関係を確認し、真摯に対応する。

・一般論として、事業者が法令を遵守し、地元の理解が得られるものであれば、行政がその可能性を摘むことはできない。しかし、住民の皆様が強く反対し、水源汚染の不安を抱えている状況において、町としては住民の皆様への丁寧な説明と対策を事業者に求めることとなり、安易に容認するものではない。今回示された水源・安全に関する懸念と熱い思いはしっかりと受け止めた。今後、担当課の対応状況を速やかに確認し、区長さんや議員の皆様とも連携を図りながら、丁寧なコミュニケーションと適切な対応を進める。

意見 3_外国人住民との共生と生活ルールについて



・町内に多くの外国人住民（技能実習生等）が居住しているが、民間空き家に入居している実習生などは約 3 年で入れ替わってしまうため、顔も分からず近所付き合いもなく、地域住民として非常に不安・不信感がある。具体的には、車の運転が非常に荒いこと、地域の草刈りや共同作業に一切参加しないこと、ゴミ出しのルールが守られておらず散乱していることが挙げられる。以前、ゴミ集積所にベトナム語や英語の多言語看板を設置してほしいと要望したが、2 年経っても対応されていない。町としてどのような基本方針・対策を持っているのか。

◇ 勝谷町長

・外国籍の方にも当然ながら人権があり、一概に「外国人イコール危険・危ない」と決めつけるような発言・姿勢を行政が取ることは不適切である。実際、他地区（荒木区）では実習生と地域住民が交流を深め、夏祭りの貴重な担い手として活躍している好事例もある。顔が見えない関係だからこそ恐怖心や不安が生まれる側面がある。

- ・一方で、文化や風習の違いによる交通マナーの悪さやゴミ出しルールの不徹底などの課題は認識している。多言語（ベトナム語や英語等）でルールを記載したチラシ等については作成済みであり、担当課（農林環境課）において対応可能であるため、現場での対応を粘り強く進める。また、警察（田辺警察署）とも意見交換を行っており、軽犯罪や交通違反の傾向を定点でしっかりと把握していく。

- ・あわせて、外国籍の方を雇用している事業者に対しても、地域ルール遵守の指導・教育を徹底するよう、コミュニケーションを図り協力を求めている。

意見 4_災害時（大規模停電）における情報提供について



- ・数年前に大規模な災害に伴う大停電が発生した際、役場に電話をしても「関西電力が対応中である」と繰り返すばかりで、広報車等による地域への巡回案内や情報提供が一切なく、トイレの確保や冷蔵庫の食品廃棄などで非常に困惑した。情報発信のあり方を見直してほしい。

◇ 勝谷町長

- ・関西電力による復旧作業が最優先となる中で、情報提供に不足を感じたということは、受け止める。しかし、災害の規模が大きくなればなるほど、広報車という物理的な手段で全域をカバーすることには限界がある。そのため、現在は迅速かつ確実に情報が届く「安心安全メール」や「公式 LINE」といったツールの活用を提案し、強化を進めている。また、大災害時ほど行政による「公助」は十分に機能しないのが現実である。防災において最も重要なのは、自らの命を守る「自助」、そして地域コミュニティで助け合う「共助」である。行政が無責任と言われようとも、この原則を住民の皆様にも正しくご理解いただくことが我々の役目であると考えている。

意見 5_山手線用地買収および地域公共交通への要望について



- ・宇治田原山手線の沿線地権者の生の声として、役場側からの具体的な用地買収の交渉や対話が止まっており、話が進まないことを非常に心配している。「自身の元気なうちに話をつけたい」と強く希望されているので、速やかに対応してほしい。

- ・奥山田地区の高齢者からの生の声として、現在運行されているハートバスが一方通行（片回り）の運行ルートであるため、役場へ用事で赴いた際、帰路のバスが夕方までないか、あるいは大回りして帰らねばならず非常に不便である。逆向き（反対回り）のコース設定など、もう少し高齢者の生活に寄り添った運行ルートを検討してほしい。

◇ 勝谷町長

- ・地権者の方の「元気なうちに話をつけたい」という貴重な生の声は重みがあり、ありがたい情報提供として受け止める。用地買収の予算と実務を担当している者にこの声を届け、連携して対応を促す。

- ・奥山田区に関しては基本的には「ハートタクシー（予約制）」のエリアとして設定しているため、バスということであれば子どもたちの登下校に合わせたスクールバス（地域住民は混乗可能）を利用されているということかもしれない。ご指摘の部分を確認したい。

意見 6_プレミアム商品券について



- ・物価高騰に直面する中、プレミアム率 40%のプレミアム商品券は家計支援として非常に効果的である。単なる一過性の経済対策に終わらず、住民同士や地域店舗とのつながりを生むツールとして今後も継続してほしい。また、京都市の「きょうとポイント」（スマホとマイナンバーカードを連携したデジタルポイント）などは高齢者にはハードルが高いため、宇治田原町のような小さな自治体だからこそ、使いやすい「紙媒体」での発行を維持してほしい。

◇ 勝谷町長

- ・プレミアム商品券への評価に感謝する。紙媒体での発行は印刷や流通、管理などの事務コストが膨大になる課題はあるが、高齢者の使いやすさや小さな町ならではの配慮という利点は理解できる。町商工会と連携しながら、今後について検討を継続していく。

意見 7_町広報紙「町民の窓」の全戸配布について



- ・プレミアム商品券の取組は素晴らしいが、それを周知する「町民の窓（町広報紙）」が全員に行き届いていない。転入してきた方や、新聞購読をやめた世帯が「広報紙郵送制度の存在自体を知らなかった」、「商品券の販売期限が切れてから知った」というケースがある。窓口での案内だけでなく、「町民の窓」は 4 月号だけでも郵便局の「タウンメール（宛名なし全戸配達）」を活用して配布したり、全世帯へ確実に届く「納税通知書」の封筒へ郵送配布に関するチラシを同封するなど、存在を広く知らせる工夫をしてほしい。

◇ 勝谷町長

- ・「町民の窓」が届いていない世帯があるという指摘は意外であり、課題として認識した（転入手続き時には案内しているが、既存世帯の新聞離れ等の影響が考えられる）。京都府の広報誌全戸配布でも漏れが発生する難しさはあるが、ご提案のあった郵便局の「タウンメール」の活用などのアイデアについては研究・検討する。

意見 8_その他要望について



- ・サンフレッシュ前の信号から大辻百貨店の間において、降雨時に竹やぶが道路へ著しく垂れ下がってきて危険なため対処してほしい。
- ・民間茶畑での農薬散布の際、近隣住民への事前連絡を徹底するよう指導してほしい（一部の丁寧な農家以外は連絡がなく困っている）。

◇ 勝谷町長

- ・道路へ垂れ下がる竹やぶの安全対策および茶畑の農薬散布に関する近隣配慮の件についても、個別ケースとして、区とのコミュニケーションをし、担当課で対応していく。

10.奥山田区

日 時	令和 8 年 6 月 29 日(月), 18:00~19:25
場 所	奥山田会館
出席者数	13 名

意見交換（◆：参加者，◇：町）

意見 1_奥山田地区への継続的支援と国道 307 号の安全対策について



・奥山田区には現在、町議会議員がいないため、このように町長や職員が直接足を運んでくれる懇談会は大変ありがたく、今後もぜひ継続していただきたい。議員がいない代わりに区長が熱心に動いてくれているが、町議会議員と区長が両輪で動いている他地区と比較すると、奥山田はやや不利な面もあるのではないかと感じている。特に懸念しているのは、宇治田原郵便局から峠を上がってくる道の法面（崖）である。常に崩落の危険を感じながら走行しており、過去にも小さな崖崩れで通行止めが発生している。今後さらに大規模な崩落が起これば、奥山田地区全体が完全に孤立してしまうのではないかと非常に心配である。新しく土木に強い森田副町長が就任されるとのことなので、ぜひ知見を活かしていただき、国道 307 号が良い方向へ改善されるよう配慮をお願いしたい。

◇ 勝谷町長

・奥山田区の区長からは平素より熱心に地区の課題についてお話を伺っており、また別の立場の方々からも多様な意見をいただいている。町全体としての最適化を考慮しつつも、地区の皆様と意思を一つにして進めてまいりたい。国道 307 号の当該狭隘区間については、課題認識を持っている。昨年も国に対して直接要望活動を行ってきたが、直近の 7 月 1 日にも、京田辺市長および井手町長とともに京都府知事へ面会し、国道 307 号の整備に関する要望書を提出する予定となっている。災害時における本地区の孤立や取り残しリスクについては重要な課題として捉えており、改善に向けて引き続き全力を尽くす。

意見 2_地域公共交通（デマンドタクシー等）の利便性向上について



・地域公共交通の再編（バスからデマンドタクシー等への移行）が実施されて数年が経過しているが、奥山田地区は非常に高齢化が進んでいる。主要道路や既存の停留所まで歩くこと自体が困難な高齢者が増えているのが現状である。足の確保について、住民が考えていることや困りごとを組織的に話し合ったり説明を受けたりする機会が少なく感じている。奥山田の地理的特徴として、主要道路のほかに「谷」が 3 つある。これらを上手く活用し、停留所へ行くだけでなく、地域をぐるりと巡回するようなルート設定やタクシーの運用はできないだろうか。現状、買い物へ行く際など、行きは何とかなくても、帰りに重い荷物を持って停留所からの急な坂道を歩いて登るのが非常にしんどいという声が出ている。距離自体は長くなくとも傾斜が厳しいため、将来的に車に乗れなくなる人が増えた時のことを見据え、もう少し細かい部分まで仕組みを考えてほしい。

◇ 勝谷町長

・移動の足に関する課題は多くの地域から同様の声をいただいております、これまでも出前講座等を通じて職員が説明に伺ってきたが、地域の最適解を見つけるのは非常に難しい。現在の仕組みで停留所が限定されている背景には、他のバス路線を利用されている地域との「公平性」を保つルールがある。タクシー感覚で任意の場所から場所へ自由に行き来できるようにしてしまうと、制度の維持やバランスが崩れる懸念があるためである。ただし、現状の仕組みでも個人の自己負担（メーターの切り替え等）を併用することで、停留所から先の町外等へ 1 台のタクシーで移動できる。地域全体の「互助」的な取組としてできないかや、現在の奥山田の状況において、どこが最も移動に苦勞されており、どのポイントに停留所を設けるべきなのか、一度区長等を通じて具体的な声を集約いただければ、意見交換を始めさせてもらっていいのではと思う。

意見 3_水源環境と水質の安全性について



・奥山田の簡易水道※1 について、実際に取水している水源がどこにあり、その周囲の環境がどのようなになっているのかが住民側からはっきり見えないため、安心して利用できるよう詳細を教えてください。

・昨今世界的にクローズアップされている水道水の有害成分（PFOS 等）に関して、日本の許容基準値は欧米等と比較して緩いのではないかという危険性をニュース等で耳にし、心配している。奥山田の簡易水道の数値や成分の状態がどうなっているのか、安心してできる根拠がほしい。

◆ （参加者からの補足）

・奥山田の水源は、黒山側の川から流出してくる水を吸水し、茶屋村の浄水場に引いて処理を行っている。したがって、周辺の民間開発等の影響は受けないルートの水である。過去の開発時にも、水源や植物に関する調査を行い、合意の上で現在の水道システムが整備されている。

◇ 勝谷町長

・地域の有識者の方々から水源の構造について心強い補足説明をいただき感謝する。町としては、皆様の蛇口から出る手前の段階で、水道法が定める基準に従い、50項目以上※2 の定期的な水質検査を行っており、すべての基準をクリアした安全な水を供給している。ただし、奥山田浄水場は表層に近い川の水（表流水）を取水させてもらっている特性上、大雨が降ると水の「濁度（濁り）」が急激に上昇するため、現場の職員が一時的に取水を止めるなど、日々の管理には大変な苦労を重ねながら安全性を維持している。世界的・先進国的な基準との比較や、より詳細な成分値データについて疑問や不安がある場合は、上下水道課へ直接お問い合わせいただければ、より明確な検査数値の提示と詳細な説明を行うよう指示する。

◎ 補足説明

※1 町内水道体系について

町では水道事業の効率化と経営安定化のため、第4次拡張事業計画等に基づき、簡易水道を上水道へ統合するプロセスを完了しています。現在の給水体制は以下の3系統。

第1系統（田原地区）：主に地下水（上柳原・柳原取水場）を利用。

第2系統（宇治田原地区）：主に地下水（立川浄水場内・川東・大地等）を利用。

第3系統（奥山田・湯屋谷地区の一部）：河川表流水（清水谷川・宇津尾川）を利用。

※2 水質検査項目について

1.水道法に基づく水質基準項目の検査：51項目

2.水質管理目標設定項目（PFOSを含む努力規定）：27項目

意見 4_太陽光発電への姿勢および共同募金の透明性・手法について



・町内における太陽光発電事業について、個人の土地で自由に設置される分には個人の自由かもしれないが、町全体として事業を誘致・推進するような姿勢をとることには違和感があり、反対である。

・かねてから疑問に思っているが、「赤い羽根共同募金」や「日赤（日本赤十字社）」の募金活動について、昔は年 1 回だったものが現在は回数が増えているように感じる。他地域では募金数千万円の着服ニュースや、特定の活動団体（家出少女保護を謳いながら偏った政治的活動を行う東京の団体等）へ募金が流れているという噂を耳にし、不信感がある。さらに、地区内で募金を集める際、集金袋や名簿に「個人の名前」と「金額」を事細かに記入して提出させる形式になっているが、善意の気持ちなのだから、そもそも名前や金額をわざわざ書かせる必要はないのではないか。

◇ 勝谷町長

・太陽光発電については、町から業者に対して設置を依頼したり、事業そのものを推進したりする姿勢はとっていない。設置を巡るトラブルを防ぐため、事業者から申請があった際は「最も身近な行政として、まずは周辺住民の皆様の意向を最優先に大切にし、十分な理解と合意を得てから進めること」を求めている。なお、現在のエネルギー業界のトレンドとしては太陽光パネル単体の設置は落ち着きつつあり、今後は蓄電池の活用等へシフトしていくものと認識している。

・共同募金についてであるが、年末に行われる「赤い羽根共同募金」に関しては、集まったお金のほぼ 100%が宇治田原町内の福祉活動や地域支援のためにダイレクトに還元される仕組みになっており、町外の不透明な団体等へ流出する心配はないのでご安心いただきたい（※9 月頃に行われる募金のみ、数パーセントが京都府全体の枠組みに回る）。

・一方、「日赤」は世界組織であるため地域への直接的な還元率は共同募金より低くなる。名簿への氏名・金額の記入方法については、おそらく「誰がいくら納めたか」を地域で便宜上管理するための慣例（義務ではない）と思われるが、町長が直接集金方法を指示できる立場にないため、共同募金委員会等の場において手法の是非を議論していただくのが筋であると考えている。

◆（参加者からの補足）

・共同募金の氏名記入の必要性の件について、ちょうど先日共同募金委員会の会議に出席したため、今回の疑問点を委員会側に伝えて確認をとっておく。

意見 5_道の駅構想と茶畑ロケーションを活かした交流拠点の創設について



・近隣の和束町などは、人口が少なくても「お茶の町」として対外的な情報発信や外国人観光客の集客を非常に活発に行っており、成功している印象がある。宇治田

原町も昔に比べて近年は非常に活性化していると感じるが、例えばトンネルを抜けてすぐの場所に、いつでも気楽に立ち寄れて人が集まれる「たまり場」や「前向きな交流拠点（昔の農協直売所や道の駅のようなもの）」があると良い。自分のように外から移住してきた人間は地域の知り合いも少ないため、ふらっと行ってホッとできる場所があればありがたい。



・今の道の駅や拠点づくりの話に関連して、お茶畑の上にある「西ノ山展望広場」は非常に景色が綺麗で素晴らしいロケーション。現状はただトイレを利用するための場所のようになっており、あのまま放置されているのは非常にもったいなく残念に思う。和束町にある「石寺の茶園」のように、美しい茶畑を見下ろしながら美味しいお茶や食事を楽しめるカフェや道の駅のような施設を宇治田原町にも作れば、多くの人を訪れる素晴らしい拠点になるのではないかな。

◇ 勝谷町長

・皆様からいただいた「道の駅」や「交流拠点」のアイデアについては、まさに今、新名神のインターチェンジ周辺や山手線沿いといった町全体の「面」的な広がりの中で、どのように形にしていくかを様々な機関や民間企業と熱心に可能性を検討している段階である。ここで重要なのは、先行して成功している他町の事例の多くは「民間企業や地域の事業者自身が主体的かつ上手に経済活動を行っている」という点である。行政主導でハコモノを作って経済活動をやろうとすると、基本的にうまくいかず、持続しないことが多い。そのため町としては、地域の人々が主役となり、民間や地方銀行、地域商社（来月「宗円交遊庵やんたん」で民間の方を招いて地域商社の勉強会を開催予定）などのノウハウを取り入れ、役所はそれをバックアップ・後方支援する形がベストだと考えている。

・「西ノ山展望広場」の茶畑ロケーションの活用も大変魅力的な候補の一つだが、点だけで突発的にカフェを作っても持続しないリスクがあるほか、実際にその茶畑で作業をされている農家さん側からは「観光客が手前までたくさん来すぎると農作業に支障が出る（迷惑問題）」という課題もあるのでは」と、耳にしている。こうした光と影の両面を考慮しつつ、地域全体が潤う最適なグランドデザインを描いていきたいので、ぜひ今後とも皆様の知恵を貸していただきたい。

意見 6_中学校の教育環境・部活動の充実と評価のあり方について



・自分には子供が3人おり、すでに上の子は40代になっているが、当時から、今の町内中学校のネガティブな噂や印象を周囲から聞くことが多かった。町に1つしかない中学校なのだから、スポーツで頂点をめざして誇りを持てるような環境づくりが必要だと思うが、町としては中学校の学力や部活動の強化についてどのような取組を行っているのか。

◇ 勝谷町長

・維孝館中学校に関するその手のネガティブな印象については、私自身非常にヤキモキしており、明確に事実を正したい。実際のデータとして、昨年の全国学力テストにおいても、維孝館中学校は、地方紙で報じられた近隣地域の中で「唯一平均点を超えた」実績を残している。しかし、地元メディアの報じ方や周囲の心ない噂話によって、風評被害のように広まってしまう傾向があった。そのため町としては、町内に 1 校しかない中学校が過度な批評に晒されるのを防ぐため、平均点の公表は、個人への返却を除き原則として控える方針へと転換した。これは、他市などのように複数の学校が域内にあれば各校の点数は見えないが 1 校だとダイレクトに見えてしまうため。

・現在、南教育長とも深く議論している教育の本質とは、「子どもたちの今と未来の幸せを最大化すること」を目的とすることである。そのために、単なるテストの点数（認知能力）の高さだけを競うのではなく、前年 50 点だった子が先生の指導によって今年 60 点になったというような「本人の成長度（伸び）」を正しく評価することや、数値に表れない「非認知能力」をいかに測り育てるかという「教育の質」の研究を進めている。部活動についても、少子化の影響で女子ソフトボールや野球などの伝統的な部活が無くなる一方で、現在はバレーボールや駅伝など、復活させようと動いているところもある。ある書籍によると、男子生徒は、学生時代にクラブ活動に打ち込んだ経験を持つ人の方が、将来の幸福度や経済的安定性が高くなるという統計調査もあるため、部活動の持つ意義は大きい。教育行政の具体的な実践は教育長がリードしていくが、私が持つこの熱量をそのまま教育現場へ伝え、今後も最大限のバックアップを行っていく。

11.湯屋谷区

日 時	令和 8 年 6 月 29 日(月), 20:00~21:30
場 所	湯屋谷会館
出席者数	16 名

意見交換（◆：参加者，◇：町）

意見 1_高齢化社会における災害時の避難インフラについて



・宇治田原町の 8,500 人の中に外国人はどれくらい含まれるのか。また、湯屋谷地区の実際の高齢化率は何パーセントか。東日本大震災や近年の激甚化する水害を考えると非常に心配である。足の悪い家族もあり、一本道の避難路では有事の際に平

常心で避難することは難しい。高齢化が進む中、災害時にどこへどう逃げるべきか、町としての具体的な考えを聞きたい。

◇ 随員職員

・人口 8,500 人は令和 7 年国勢調査の速報値であり、うち外国人は 500 人超。地区毎の詳細な集計は今後明らかにされる。5 年前のデータになるが、その当時でも湯屋谷地区の 65 歳以上高齢化率は約 43.5%であり、町平均の 30%強と比較して非常に高い水準にある。

◇ 勝谷町長

・災害時、約 120 名の行政の職員数では全域を即座にカバーすることは困難であるため、まずは「自助」、そして地域で助け合う「共助」が機能する。町では避難行動要支援者名簿の事前登録を進めており、地域全体で避難をサポートできる体制づくりをお願いしたい。水害等の場合は、警報レベル 4 に達する前の早期避難を検討いただきたい。

・リダンダンシー（迂回路）に関しては、湯屋谷から国道 307 号へ抜けるルートが限られている点や、奥山田地区の道路狭隘問題も含め、課題として認識している。先日の大雨による倒木対応等、住民の皆様にはご不便をかけたが、国道 307 号の整備拡充等について明後日にも知事へ直接要望を行う予定であり、一步一步改善を進める。

意見 2_古道「赤ヶ尾の道」の復旧と観光ルートとしての整備について



・中谷と塩谷をつなぐ室町時代からの峠道「赤ヶ尾の道」が、現在は法面の崩落等により通行不可能になっている。町の作成した観光マップ「やんたん散策マップ」※1 にも観光道路として掲載されているため、観光客が迷い込んで引き返す事案も発生している。せめて人が安全に通行できる程度に整備してほしい。詳細をまとめた提案書を提出する。

※1 「やんたん散策マップ」について

当時の産業観光課が作成（R2 年 3 月発行）した歩いて回る観光名所を案内した 3 つ折サイズのパフレットで、町の観光情報サイトにおいて、現在もデータ（PDF ファイル）公開している。

◇ 勝谷町長



・当該古道が観光マップに掲載されている経緯を把握していない。貴重なご提案であり、過去の経緯や現状について役場内で調査・確認させていただく。

意見 3_物価高騰支援策としての「お米券」支給について



・他自治体では国の交付金を活用してお米券を支給している例があると聞く。主要な食料である米への支援（お米券）について、町としてはどのように検討されているのか。

◇ 勝谷町長

・お米券に関しては、宇治田原町のように実家等から米が手に入りやすい地域では「使い勝手が悪い」、「不要である」という声が一定数存在する。また、町外での使用による域内経済循環の停滞の懸念や、当時の米の流通状況も勘案し、京都府内の多くの自治体と同様に支給を見送った。

・その代わりに、町としては全住民が町内のスーパーや商店で幅広く利用できる「プレミアム率 40%の商品券（5,000 円で 7,000 円分）」を 1 万冊発行し、物価高騰対策の予算として配分した。何かを止めて切り替えたわけではなく、全体の予算枠の中でより効果的なメニューを選択した結果である。

意見 4_中谷地区の避難路確保について



・湯屋谷の中でも特に「中谷地区」は災害時に逃げる場所（山への避難路等）がなく、高齢者も多いため走って逃げることができない。嫁いできてからずっとこの状況が変わっておらず、家族も災害を非常に恐れている。先ほど出た「赤ヶ尾の道」が整備されれば塩谷方面へ通行でき、命が助かる。安全に歩いて避難できる道を何としても作ってほしい。中谷地区の住民の不安は非常に切実である。

◇ 勝谷町長

・住民の皆様の切実なお気持ちと思いは十分に理解しており、重く受け止めている。これまでの地区内での協議の経緯もあると思われる。中谷地区でいうと奥の砂防堰堤整備については、京都府に多額の予算を付けてもらって現在懸命に進めていただいている。避難路については、これまでのいきさつを確認しながら、区長や地元の議員の皆様とも情報交換をさせていただきたい。

意見 5_来訪者増加に伴う防犯カメラの設置・増設補助について



・地域の活性化により観光客やカフェ利用などの来訪者が増えたことは喜ばしいが、以前のように「見慣れない車や人」を警戒するだけでは追いつかなくなり、防犯面の状況が変化している。現在、地域に 1 台防犯カメラがあるが、安心安全のために町の設置補助制度や増設計画を検討してほしい。

◇ 勝谷町長

・現在、町には防犯カメラ設置費用の「2 分の 1」を補助する制度メニューが存在し、他地域でも同様の要望が上がっている。一方で、プライバシーの観点から設置を好まない住民も一定数おられるため、地域（区）として設置の合意が得られるようであれば、ぜひこの補助制度を活用して増設を進めていただきたい。

意見 6_町職員数の適正性と災害時の初動対応について



・過去 10 年間で町の職員数は増減しているのか。阪神・淡路大震災等の教訓からも、有事の際に職員数が不足していれば対応が回らない。先日の大雨以来、猿丸神社の先で水が溢れているが対応しきれていないのでは。災害が激甚化する中、職員数を増やすなどの危機感を持つべきではないか。

◇ 勝谷町長

・町の職員数は過去 10 年間、約 120 名強でほぼ横ばい。災害が激甚化・広域化した場合、職員自体が被災し、役場が機能制限に陥る可能性は高い。初動において職員が全地域の現場へ即座に赴くのは困難であるため、タイムライン（時間軸）として初期は「自助・共助」に頼らざるを得ず、行政（公助）は避難所運営等の長期的なフェーズで力を発揮することになる。

・水防等の人海戦術において人員を 10 名増やしたとしても限界があるため、デジタルツール等の「文明の利器」への置き換えによって安心安全を高める想定が必要である。山城地域の市町村長間で広域的なマッピングを行い、道路ネットワークにおいて、どこが弱いのか、という共通認識を持つ取り組みも始めている。現局面において、人員を増やす考えは無いが、組織にとって有益な優秀な人材をバランスよく採用していく方針である。

意見 7_河川の土砂堆積に伴う洪水対策と警報時の消防巡回について



・先日の大雨の際、自宅近くの河川（4 つの河川の合流地点の下流部）を見たところ、川底が上がっており道路冠水（洪水）まであと 20～30cm という危険な状態だ

った。ここが溢水すれば周辺の店舗や住宅が浸水し、避難も車移動も不可能になる。また、元防災関係の仕事をしていた経験から、警報発令時に宇治田原分署が域内の巡回警戒を行っている姿が見られなかったが、委託金を出している以上、有事の巡回体制はどうなっているのか確認したい。

◇ 勝谷町長

・河川の土砂堆積や草の繁茂、カーブ部分への堆積による溢水リスクは認識している。土砂撤去の要望を上げていただき、町としても早期に対応できるよう努める。土砂災害や浸水の危険エリアにおいては、ハード面の改善を進めつつ、自然との共存（早期避難の意識）も持っていただきたい。

◇ 勝谷町長 / 随員職員

・大雨警報時の早朝巡回等は町の職員が対応している。消防署による巡回警戒の法的な位置付けや、実際の災害時の動き、警戒体制については、改めて消防側に確認（ヒアリング）させていただく。

意見 8_転入者に対する自治会加入および地域ルールの周知について



・現在、地域で自治会費の集金に回っているが、昔からの住民は当然に納めてくれる一方、よそから新しく転入された方から「なぜ自治会費が必要なのか」、「金額が高い」といった意見を受けることが多々ある。町として、転入手続きの際に自治会への加入説明や地域のルールを周知するような仕組みを考えられないか。

◇ 勝谷町長

・非常に切実な問題であり、深く同意する。湯屋谷だけでなく、他地区でも同様の苦勞をされている。地域の自治会（区）の力こそが地域の維持そのものであるため、町としても「自治会加入を推進する」という明確な立場を取るべきである。転入時（住民登録時）の入り口で全員に周知できるような文書や案内方法について、先進事例などを研究し、前向きに検討したい。

意見 9_高校生バス通学費補助の定期券適正区間について



・高校生のバス補助（補助率 3 分の 2 に拡充）は大変助かっている。しかし、田辺方面へ通学している息子が、部活やバイトのために新田辺までの定期券を購入した際、バス会社から「町からお叱りを受けたため、学校前までの定期に変更してほしい」と連絡があった。役場に確認したが「適正区間で支払うため、適正区間で購入してほしい」との回答以降、1 か月間連絡がない。補助額の増減ではなく、なぜ町に購入区間まで指定される必要があるのか、その意図を伺いたい。

◇ 勝谷町長

・制度上「学校までの区間」という原則があるためと推測されるが、教育委員会からの返答については、個別ケースとなるため、事実関係を確認した上で、改めて担当より連絡を入れさせる。

以上